

《学会報告》

# Australia Sports Commission 「Our Sporting Future 2007」 国際フォーラム報告

荒井 宏和

## A report on Australia Sports Commission's "Our Sporting Future 2007"

Hirokazu ARAI

キーワード：タレント発掘, アクティブアフタースクールコミュニティ

Keywords: Talent Identifecation and Development, Active After-School Community

### 1. はじめに

2007年3月22日から23日において、オーストラリア・クイーンズランド州で開催された「Our Sporting Future2007」国際フォーラムに出席した。本フォーラムの主催は、Australian Sports Commission (以下ASC) がホストとして開催されたものであり、国内外のスポーツに関わる研究者、クラブ・アドミニストレーターなど多数の参加があった。

このASCは、21世紀におけるオーストラリアのスポーツをグラスルーツからトップレベルに至る幅広い層において浸透させ、発展させることが不可欠であると考えている。その理由は、この政策の成果を得られたとき、国内の経済や国民の健康に関わる問題、あるいは産業や雇用の創出といった問題に対し、スポーツが社会に強烈なインパクトを与えることが期待されるからである。

今回のフォーラムで発表された各演題は、「Demography」「Business」「Technology」の

3つのKey Wordに分類され、スポーツ医・科学に関連した最新の技術や研究のプレゼンテーションがあり、オーストラリアのスポーツ事情を知る上でも大変貴重な機会であった。

### 2. プログラム

#### 1) スポーツの参加人口について (Demography)

本セッションでは、スポーツの参加人口の拡大を目的としており、スポーツを支えるボランティアの確保や優秀な才能を持つ子供達の発掘や運動をする機会の創出、またクラブマネジメントを通してメンバーの確保などの取り組みについてプレゼンテーションがあった。

#### ① Keeping our kids active

—Judy Flanagan; General Manager, National Junior Sport Program at the ASC

—Professor Wendy Schiller; Director of Early Childhood & family Studies at the University

of South Australia

—Jenny Collins; Chief Executive Officer of Active Bodes

② It's different in the Bush

—Garry Humphries; South West Regional Manager, Sport & Recreation Queensland

③ Identifying & Developing Talent —Forget Beijing, What about London?

—Dr. Jason Gulbin; Manager of National Talent ID Program, Australian Sports Commission

④ SameSport, Different Game —why are people moving away from traditional sports ?

—John Strachan; Senior Project Officer at Vic. Health

⑤ Exercise Recreation and Sport Survey

—Chris Owens; Research Consultant, Australian Sports Commission

⑥ The Three P's to Building Strong Community Clubs

—Ronnie Hurst; Director of Programs and Services with WA Department of Sport & Recreation

⑦ A social role for sport: who's keeping the score ?

—Professor Fred Coalter; University of Stirling UK

2) 職業としてスポーツに携わる (Business)

スポーツ関連の職域に携わる症例報告であり、メディア関係、施設管理者、クラブマネージャーによる取り組みについてプレゼンテーションがあった。

① Structure and Governance —Touch Football Australia case study

—Michael Sparks, Chairman & Colm Maguire; Game Development Manager of Touch Football Australia

② Product Super Session

—Phil Whittaker, Managing Director of P4 Group & Alan Schauder; Director of Merchantwise

③ Creative use of PR & the Media

—Nicole Browne; Managing Director —Media Opps

④ AIS and Berlei aim to 'Beat the bounce' —the changing needs of women in sport !

—Julie Malandin; General Manager of The Berlei Group

⑤ Grass roots on grass roofs —the challenge of land planning !

—Stephen Bourke

⑥ Sports broadcasting: what are your rights ?

—David McGrath; Head of News, Sport and Finance, Yahoo!  
—Steve Wood; Chief Executive Officer, Tennis Australia

### 3) 最新の技術研究の活用 (Technology)

スポーツ医・科学研究の成果をどのように現場に還元するかについて、研究者やメディアに携わる関係者からのプレゼンテーションがあった。

① **New media —use and challenges in sport**  
—Trevor Cook; Director of Jackson Wells and Morris Interactive workshop

② **Connecting, Sharing, Growing!**  
—Keith Lyons; Head of Biomechanics & Performance Analysis, Australian Institute of Sport

③ **Connecting Stakeholders: How technology can prepare us for the future**  
—Umberto Righetti; Commercial Director, Sporting Pulse

④ **Technology used in coaching**  
—Damian Farrow; Senior Skills Acquisition Specialist at the Australian Institute of Sport

## 3. プレゼンテーション詳細

### 1) タレント発掘と育成「e-TID」の試み」 (Dr. Jason Gulbin; Manager of National Talent ID Program)

スポーツ参加者の人口拡大あるいは、優秀なアスリートの発掘・育成は、国際競技力向上に寄与するための重要な要素となる。オーストラリアでは、この人材を効率よく発掘するためのシステムを構築するため、タレント発掘（以下TID）のための研究がGulbin博士を中心に実施

されており、トリノオリンピックでは、ライフセービングの経歴をもつMichelle Steele選手が女子スケルトン種目に出場し、18ヶ月のトレーニングの結果、第13位の成果をあげた。

オーストラリアで、タレント発掘を展開する上で、広大な国土は弱みとなる。その理由は、地域にある施設を拠点としてイベントを開催した場合、人口が密集する地域をターゲットとしなければならず、地方に分散した子供達を対象にすることは困難である。そこで、オーストラリアでは、このようにタレント発掘のイベントを全国で開催することの限界を克服するための新しい試みとして、大学や学校の施設や人材を活用した機会創出なども考えられており、その他にインターネットを介した自己申告による発掘システムも検討されている。そこで、今回の発表はではインターネットを活用したシステム(e-TID)について発表があった。

方法1：自分で該当する項目を計測する。

(例：スプリント、垂直跳、身長、体重、懸垂など)

方法2：インターネットで結果を打ち込み送信する。

方法3：トップの記録がナショナルタレント発掘プログラムスタッフに自動的に送られる。

方法4：その結果を地域あるいは各都市のテストセンターで分析される。

方法5：エントリーした子供は、ナショナルタレント発掘イベントに招待される。

参加者にとっては、広域から高額な交通費や宿泊費を捻出し、TIDイベントに参加したにも関わらず、テストで不合格になることもあることから、予めテストを通過することができる可能性について、インターネットを通じて知るこ

とができるメリットがあるということであった。

## 2) Keeping our kids Active

### (Judy Flanagan; ASC National Junior Sports Manager)

Judy Flanagan女史は、グラスルーツからエリートスポーツまで幅広いスポーツの研究に着手しており、特にActive After-School Community (以下AASC) プログラムの作成に欠かせない人物である。

このAASCプログラムは、オーストラリアにおける子供達のスポーツ離れにより、肥満や体力低下という現象傾向が懸念され、その対策として、2004年から4年間でAUS\$116,000,000を費やしたプログラムである。その内容は、5歳から12歳の児童150,000人を対象として3,250箇所の小学校や課外ケアサービスセンターにおいて、放課後スポーツプログラムを実施するというものである。

AASCプログラムに参加した子供達のうち、1週間の運動時間が3時間程度という割合が、2005年が88%、2006年が85%であった。また、運動時間が1時間かそれ以下に該当する子供は、45% (2005年) であったが、その後23%に減少し、プログラムに参加した子供のうち34%は、12ヵ月後には積極的 (週に3時間かそれ以上) に運動をするようになった。その結果、このプログラムを以下のように評価している。

#### 1) アクティブアフタースクールの内容に関する客観的な評価

- ・85%の子供達が、「楽しかった」あるいは「とても楽しかった」という感想であった。
- ・両親によるプログラムに対する評価は、91%が安全であり、90%が楽しかったとしている。

- ・95%の学校関係者、あるいはスタッフが、楽しくそして安全なプログラムを提供できたと感じた。

#### 2) アクティブアフタースクールプログラムが運動不足の子供達に基本的な運動のスキルを提供させることについて

- ・参加した子供の75%がプログラムを受ける前と比較して、より積極的に参加するようになった。
- ・スタッフの92%が、子供達の基本的な運動スキルに「満足」あるいは「大変満足」している。

#### 3) アクティブアフタースクールプログラムの実施が、大成功として受け入れられた背景には

- ・プログラムの内容が確立されていたこと
- ・各地域にコーディネーター (学校の先生や専門スタッフ) が配置され協力が得られたこと
- ・地域のコーディネーターが、サポートやモニタリングしてトレーニングプログラムを提供できたこと

#### 4) 運動に積極的な子供とそうでない子供の違い

- ・両親の時間がない
- ・スポーツへの参加にかかる費用の問題
- ・参加するための交通手段がない
- ・コンピューターやテレビのような身体を動かさなくてもよい生活習慣の影響

## 4. おわりに

オーストラリア国民において、特に若年層の

肥満や不規則な食生活に対する問題が懸念事項として注目されている。そこでオーストラリア政府は、このような状況を改善するために、スポーツを通してこれらの問題が解決できるとの期待から、戦略的な政策展開を試みてきた。

特に、モン트리オールオリンピックにおいて金メダル0個という結果を憂慮した政府は、1981年にキャンベラのナショナルスポーツセンターにAustralian Institute of Sport（以下AIS）を設置した。ここではスポーツプログラムに関する研究や選手、コーチへの支援、技術指導などが実施され、2000年に実施されたシドニーオリンピックや2004年のアテネオリンピックでは、メダル獲得上位を位置する国へと貢献した。

ASCは、1989年に設立されたが、その事業

内容は競技団体などスポーツ関係機関への予算の配分、AISの運営、国民のスポーツに関する意識高揚につながるサポート事業、特定対象層へのスポーツ参加を促すプログラム開発などに着手しており、AISはこの傘下に位置する。

今回のフォーラムでは、このASCの事業に基づき、将来のオーストラリアにおけるスポーツ政策のビジョンを包含した内容であり、スポーツ文化を支える地域クラブのマネジメントや子供達への肥満防止対策から、2008年に開催される北京オリンピックや2012年のロンドンオリンピックに至る対策まで、グラスルーツからトップスポーツにおける幅広い階層へ着手することが、オーストラリアのスポーツ文化を支える力になるのではないかと考える。